すなっぷ

さりげないスナップ写真のすてきな笑顔のように
群馬の教育や文化の話題を、ふだん着のままで紹介するシリーズ

# いそべこども園に行ってきましたー！

みなさんは、就学前に幼稚園と保育園、どちらに通っていましたか？今回取材した認定こども園いそべこども園は、幼稚園・保育所・子育て支援センターの良いところを活かし、子どもたちの「教育」「保育」「子育て」を総合的にサポートできるようにした幼保連携型の園です。また、この園では長年にわたり、子どもたちの「たくましくいきる力」を育てるため「お山保育」の実践を行っています。就学前の教育・保育ニーズに対応する新しい「幼保連携型の園」と「お山保育」とは？フォーラム運営委員の坂田尚之・平井敏久のおじさんコンビが、お山保育を体験、園を見学してきました。

## ■「お山保育」ソリ滑り■

### ◇「エイエイオー」で出発

３月８日（金）午前１０時少し前、取材の目玉・「お山保育」の始まり。我々が子どもたちに紹介された後、まずは「エイエイオー」で出発式。園バスに乗りいざ「お山」（松井田町北野牧）へ。運転手さんにごあいさつ。感謝の気持ちを大事にします。子どもたちと会話を交わすうちに取材の二人は早くも「こどもの世界」へ。

車中では、山に近づくにつれ増える残雪の観察、クイズ形式で木の芽や動物の足跡の学習もおこないます。大自然の中で季節を感じさせたいという願いがこめられています。（「お山」は使用料を払って利用しているとのこと）まだ一面銀世界の「お山」に着くと、子どもたちは各々ソリを手にスタート地点へ。途中動物らしき足跡を見つける子もいます。学習の成果です。約５０～６０ｍのソリ滑りのコースは、バスの運転手さんや添乗員さんたちの手で整えられています。

### ◇いよいよソリ滑り！

まずは園長先生がお手本。「お空を見ながら滑るのよ～」と言いながら、年季の入ったみごとな滑り。

子どもたちも二人の先生に支えられて次々とスタート。紐や体で舵を取りながら巧みに滑ります。転がり方も自然体でうまいもの。下まで一気に滑る子もいます。回を増すごとに工夫してスムーズになります。ほめられると嬉しそう。

スタート地点に戻る途中､｢誰々ちゃんが足を踏んだの｣｢手袋がとれちゃった｣｢誰々ちゃんが押したの｣｢ズボンの中が変になっちゃった｣といったハプニングも起こりますが、お互い助け合ったり、注意をし合ってうまく解決します。途中、雪遊びに興じる子や、ソリを使わずに滑走を楽しむ子も。なかなかの遊び上手です。

園長先生の話では、林道が通れるともう少し上に行き、氷の上を体ごと、あるいはダンボールを使用して滑ったり、側溝の中で滑ったりするとのことです。年間を通じて「お山」の四季折々の大自然と仲良くお付き合いをしているのですから、子どもたちも幸せです。取材者の子どもの頃は当たり前に自然を相手に遊んでいたので、当時を懐かしく思い起こしました。

楽しかったソリ滑りも終わりの時がやってきました。ソリを手にあるいはソリに乗りながら下ります。園バスに着くと子どもたちは自分でちゃんとソリを積み重ねてゆきます。

みごとな運転

みごとな転倒

## ◇帰りのバス

帰りのバスでは、先生からソリ滑りについての質問があります。みんな元気に自分の滑った回数を発表しています。そうこうしているうちに、砂糖をまぶしたおやつのおせんべいが配られます。取材者が、｢白いのは『お山』の雪だよー｣と言って一口食べると、｢お砂糖だよー。まだ食べちゃだめだよ、一緒に食べるんだから｣とお叱りを受けました。子どもたちのほうがしっかりしています。みんなおいしそう。でも、中には疲れてオヤスミの子も。おやつの後は絵本の読み聞かせです。先生が声をかけると集中します。

園に着くと全員で無事到着のごあいさつ。こうして「童心に返った」我々も、子どもたちと共に大自然の中で充実した一時を過ごすことができました。

## ■　副園長さんのお話　■

吉田和人副園長に園の歴史、認定こども園、そして「お山保育」についてお話していただきました。

### ◇園の歴史

「創立は１９５４年(学校法人　磯部幼稚園)。２００５年に５０周年記念事業としていそべ保育園（社会福祉法人すこやか　いそべ保育園）を設立。そして２０１１年７月１日に安中市初の**認定こども園**になりました。

この認定こども園は、幼保連携型で教育・保育・子育て支援を総合的に提供するものです。県内で唯一２つの法人を持つこの園では、すぐにでも認定こども園を設立できたのですが、職員・保護者の納得がゆくまで話し合ったため、２０１１年の設立になりました。そして国の「安心こども基金」により園舎の建て替えも可能となったため、設立に踏み切ったのです。また、認定こども園の設立を機会に旧幼稚園舎の裏の土地を購入し、新園舎が新築され園庭も広くなりました。この新園舎建設に際しても、職員同士とことん意見を出し合い、利用する子どもと保護者にとって理想的な園舎が完成しました。遊具も危険なものが撤去される傾向のなか、子どもにとって必要なものは残しました」。

大型遊具

職員のみなさんは、６０年にわたる幼稚園教育と１０年の保育実践を種に、「こども園」という新たな花を咲かせようとしているようです。

### ◇こども園の１日の流れ（３、４、５歳）

| | 幼稚園部 | 保育園部 |
|---|---|---|
| ７：３０<br>（開園）<br>８：３０ | 登園 | ＜希望保育＞<br>順次登園。挨拶や遊び |
| ９：００<br><br>１４:００<br><br>１７:００ | 幼稚園カリキュラムに沿って活動<br><br>預かり保育「カンガルーホーム」 | 幼稚園部へ歩いて移動。幼稚園カリキュラムに沿って活動（９：００～１４：００まで幼稚園部で過ごす)。保育園部へ戻る |
| １８:３０<br>（閉園） | | ＜希望保育＞<br>遊び・帰り支度 |

上の表のように、幼稚園部・保育園部の基本は９：００～１４：００（「かがやきの時間」）ですが、保育園部では希望保育を、幼稚園部では預り保育も実施。また「子育て支援センター」では無料で子育て支援をしています。このように「認定こども園」は「教育」、「保育」、「子育て支援」を総合的におこないます。２０１５年度から新制度（後述）になります。

### ◇お山保育

①お山保育の始まり

「この保育のそもそもは、文部省（当時）の『特色教育振興モデル事業』(平成１０年) に取り組んだことから始まります。文部省の要求に応えながら、先代の園長の時代から大事にしてきた『自然とのかかわり』をさらに発展させる実践に踏み出しました。そこで大きな役割を果したのが、『お山』です」。

ここで感動的な実践が生まれることになります。

②お山保育のねらい

「毎年、四季折々の自然と触れ合うため、年少は６回、年中は７回、年長は８回、山に入りますが、まず下見をして、保護者には事前に『お山』の様子・ねらい・計画などを、事後には子どもたちの様子を『おたより』で知らせます。そうすることで、保護者も安心して納得するとともに、子どもたちとの会話も弾みます。子どもたちを主人公に、保護者と園の連携が配慮されています。お山保育の具体な内容としては、今回のソリ遊びと同様、バスの中では学習をしたり、お山で新たな発見をするための問いかけをします。お山に着くとまず色々な香りを含んだ空気を胸いっぱい吸って、自然を感じます。そしてお腹の底から妙義山に向かって『ヤッホ！』と声をかけます。登りは熊さんのように四つんばいで、下りはお尻をついて、その場に応じた動きを体験します。ほかにも葉っぱの滑り台、木登り、つる遊び（ターザンごっこ）、ソリ遊び、氷すべり（川全体が凍ることもあります）などをします」。

ターザンごっこ

②お山保育で学ぶこと

「お山保育で、年少の子どもたちは怖さが先に立ちますが、**『１歩踏み出す勇気』**を少しずつ身につけます。楽しさがわかると子どもたちの表情が変化します。また、その時にしか見られないものを、**『逃さず、細心の注意をはらって見る』**ことを大切にしています。危険な場合もありますが、職員が細心の注意を払って条件を整えます。とにかく、子どもたちも先生もお山で思い切り楽しみます。年中の後半から行く１３本の桜の木（１株）は、お山のシンボルで、子どもたちは出会いを楽しみにしています。この桜の木の下で遊んだり、おむすびを食べます。『白いご飯』で米の**素朴な味**を楽しんでいます。おむすびの包装も、自然にやさしい牛乳パック・竹の子の皮などを使い、動物や『お山』の環境保全に配慮しています。ビニールの『宝物袋』に色々な木の実・葉っぱ・枝などを入れて家の人へのお土産にする（他のクラスにも）、木を持ち帰り園の炭焼き窯で焼き、その炭でカルメ焼きなどをする（この時山から持ってきた杉っ葉を焚き付けに使うことも教えます）、腐葉土を持ち帰り園の花壇にまくなど、**自然の有効利用**も怠りません。水の有効利用も然りで、ペットボトルの水を飲料用・手洗い用・傷口を洗うなど非常用にと使い分けます。また、ヒル・クマ・ハチなどへの対策も整えると同時に、自然の怖さも教えます。そのほか『お山』では、園のお誕生日会に欠席した子どものために、お誕生会を開くこともあります。**『思いやりを育む』**ためです。クリスマス会も開かれ、いろいろな工夫を凝らして**『夢の世界』**を演出します」。

園内にある炭焼き窯

見晴らしのよい
「光と風の部屋」

◇園舎見学

最後に副園長先生の案内で園舎を見学しました。

部屋はとっても明るく、窓も大きい。３歳児の部屋は扉や水回りにテーマカラーのピンクで天井に三角形を配置、４歳児はグリーンで４角形を、５歳児はイエローで５角形を、といった具合。子どもたちの部屋では、植物・小動物、大きな絵、整理箱、バスの運転手さんの手作りのおもちゃ・道具なども目に入ります。副園長生によれば、園バスの運転手・小池さんと根岸さんが運転業務の合い間に先生たちの要望に応じ、なんでも手作りで作ってくれているそうです。テーブル・ウサギ小屋・おままごとキッチン・タオル掛け・おもちゃ等々です。どれも『子どもたちのために』という思いが込められており、プロ顔負けの作品ばかりです。ほかに見晴らしのよい素敵な「光と風の部屋」、秘密基地にもなる小さな「ちょこっとの部屋」、よく整理された教材室もあります。廊下は、広く風通しが良く、トイレは、教室からも見えカラフルで清潔です。保護者・来客用の姿見・シャワー付のすてきなトイレまであります。太陽光発電の発電量を示すパネル、保護者用の部屋＜会議、学習会、料理（バザーなどに使う）用＞、機能的な職員室等々も見学してきました。清潔な給食室では、栄養士さんと調理員さんが、**「食べることは生きること」**という園の方針に沿って頑張っています。

広い園庭には地下水利用の足洗い場があります。**「はだし保育」**には欠かせません。放射線量の測定を２週間に１度おこない、安全に気を使っています。子どもの成長・発達に必要な遊具、鳥・ウサギ小屋、「ビオトープ」という地下水利用のお遊び水路、などがあります。「お山保育」とともに理想的な施設・設備です。

発電量パネル。
屋上に１０ｋｗの
太陽光パネルが設
置されています。

「びおとーぷ」
飛び石がたくさん

扉が黄色やオレンジ色
に塗られたカラフルで
使いやすいトイレ。

階段下を利用した子ど
もの秘密基地
「ちょこっとの部屋」

## ■　取材を終えて　■

### ◇子ども・子育て新制度

２０１２年８月、消費税増税法案（増税で予算確保）とセットで、参議院で可決・成立した子ども･子育て支援法案(付帯決議が１９項目)。２０１５年度からこの新制度が本格実施されますが、就労時間に応じた保育必要量の認定（超過時間は自己負担になる、保育時間が異なるため従来の実践が困難になるなどの危険性)、認定こども園（４種類)・幼稚園・保育園・小規模保育など施設の多様化に伴う格差・保育の質低下の危惧、準備不足等々の問題がたくさんあります。未来の日本を支える「お宝」の子どもたち、その成長・発達が保障されるよう、多くの人が新制度について関心を持つ必要があります。

（平井）

### ◇理科教育の視点から

子どもの感性と体験を重視した「お山保育」は、高校理科教員という私の立場から見ても非常に興味深い取り組みでした。

山に向かうバスの中で「雪がふえてきたかなぁ」と先生。「あ、ふえてきたぁ！」「せんせい、あっちにいっぱいあるよ！」窓の外を指して黄色い声が飛びます。「『お山』に行ったら雪の上にこんなのが見られるよ。何かわかるかな？」と動物の足跡の絵を見せます。バスの中でも自然を意識させる問が投げかけられます。「お山」に着いて、さぁソリ滑り。「はい、乗ったら体をそらして空を見てねぇ。サーッとよく滑るよぉ」と園長先生。重心も低くなり、ソリが安定して進むのですね。子どもたちは何回も繰り返して、そのことを体で学んで上手になっていきます。

この「お山保育」はいたる所に理科の不思議を沸き起こさせるしくみが隠されているようです。子どもの理科嫌い・理科離れが言われて久しいですが、子どもは自然の中で飛び回って遊ぶというのはもともと大好きなのです。それで危険を回避することを覚えたり、良いものを身をもって知ったりするわけです。ところが、ゲーム遊びが増えて自然の中での遊びが減ってくると、自分や住んでいる環境にとって良いのか良くないのか、安全なのか危ないのか、ということをすばやく正確にキャッチできる感覚と判断力が充分に育たないことが心配されます。理科嫌い･理科離れと無縁でない気がするのです。

園のホームページの教育目標の中に､「幼稚園は『環境を通して行う』ところです」と書かれ、「お山保育」については「あるがままの自然の中で､春夏秋冬を通して自然の偉大さ､厳しさ、美しさを知り、豊かな感性を育み、自然の中で遊びを通して、体力や運動能力の発達を促し生きる力を育てることを目的としています」とあります。そして、実際に施設を見せていただくと、木を基本に造られた建物をはじめ、資源・エネルギーの有効活用を見据えて太陽光発電システムも取り入れ､足洗いに井戸水を使ったり、草木の水くれには雨水を利用するなど、自然を活用し触れ合うしくみがふんだんに取り入れられています。「『自然を利用する』『自然を大切にする』心を育てていきます」、という方針は「自然といかに折り合いをつけてゆくか」というワザと思考を身に付けさせよう、ということに他ならないでしょう。

東日本大震災から３年が過ぎた日本は、自然の脅威と福島第一原発事故による被害の甚大さを正面から素直に受け止め、自然への対応とエネルギー・電力の賢い選択を迫られています。自然環境とこどもを軸にした、いそべこども園の方針と実践は、各小・中・高の教育目標・教育方針と実践に、大きな問題提起をしているように感じました。（坂田）

【取材・写真撮影】
＜坂田　尚之　原発と自然エネルギー研究部会担当＞
＜平井　敏久　子どもとメディア研究部会担当＞

福島県南相馬市にとどけよう！
森の防潮堤
そだてよう！命を守るどんぐり畑
（園の畑にある看板）